

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100191		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム里の家千歳 ラベンダー		
所在地	千歳市若草1丁目18-2	TEL	0123-28-5184
自己評価作成日	平成24年5月1日	評価結果市町村受理日	平成24年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100191&SCD=320&PCD=01>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番地あおいビル7階
訪問調査日	平成 24 年 7 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、ホームが地域に根ざす事を目標として、その理念の共有・実践に向け日々取り組んでいる。管理者は日頃から会議等で理念や方針・目標等を話す機会を多く作り、毎朝の申し送りでは理念の読み合わせを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から気軽に挨拶を交わし、野菜を頂く等近所付き合いがあり、触れ合いを大切にしている。地域の行事にも参加し、地域住民との交流が深まっている。また、管理者は自治会の集まりにも参加し、事業所と地域との関係を深める努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりや催しに参加した際には、入居者様のプライバシーに十分配慮しながら認知症ケアの啓発に努めている。また、地域の方が集まる機会として子供みこしの休憩所に場所を提供したり、人材育成の取り組みとして実習生の受け入れもを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催により、各関係者様方との話し合いも円滑に行われている。グループホーム全般の役割や取り組みについての理解が深まり、また、地域の幅広い立場の方々の意見を頂く事で、サービスの質の向上に繋がっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携については、本部職員、管理者が中心となり積極的に行っている。事故が起きた際の状況報告時等を利用し、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えるようにし、情報提供と共有に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアを実践している。言葉や対応による行動の制限、精神的圧迫も拘束に繋がると捉え、会議や職員の意見交換の場では、拘束に繋がるような対応がされていないか振り返るよう努めている。研修会等にも積極的に参加し、内容は全職員に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部及び管理者より高齢者虐待の定義やその内容詳細について各会議で説明を行う他、虐待に関する外部研修にも参加し、全職員にその内容を周知している。入居者様が外泊等された後にも身体確認等行う事で、ホーム内外での虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないが、制度の内容等について内部研修及び外部研修で職員理解を深める努力をし、その内容周知にも努めている。今後制度利用が必要となった場合にスムーズに対応が出来るよう職員は常に制度に関して学ぶ姿勢を持ち、必要な時に支援が出来る体制を整えていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を掛け各項目について説明しているが、契約前にも不安や疑問点を尋ね対応している。入居申し込み前には必ずホーム内見学案内も実施し、日常生活の様子やケアの内容についても説明しながら、不安や疑問等を引き出し、それらについて納得・安心して手続きが行えるよう支援している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様との日頃の関わりの中で、意見や要望、不満等を表せる機会を作り、出された意見、要望等については早期に話し合いを行いサービスに反映させるよう努めている。また、苦情・要望の所定書式、意見箱、相談窓口等の設置により受け入れ体制を整え、迅速な対応・解決に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関わる職員意見の反映については、毎月の定期的な会議の際及び日常業務の中で聞き取るようにし、その内容について本部で検討された後、必要と判断されたものについて反映されている。運営者や管理者は、職員の働く意欲の向上やサービスの質の向上の為に、常に現場の職員の声に耳を傾けるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験年数や資格取得状況に応じて賃金に反映する事で向上心に繋げている。また、日常業務内での取り組みや個々の成長過程、健康状態等を具体的に把握し、状況に応じて個別の助言や指導を行う事で、意欲や能力を引き出し、やりがいを持って働ける職場環境を作るよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修及び外部研修の受講を推進し、勤務上受講が出来なかった職員にも後日会議での報告や資料配布等により内容が周知されている。また、日頃からリーダー、管理者は職員の状況把握に努め、定期的に個人面談も実施して個人の力量や経験等に応じた指導をしている。本部職員による個別の助言指導等も随時行い、職員の質の確保・向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が主催する地域包括会議や、事業所が加盟している協議会が主催する研修会等に積極的に参加しており、同業者との交流が図れている。ネットワークを広げ悩みの共有や意見交換をする事により、サービスの質の向上、職員育成に向けた取り組みに繋がるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談及び見学案内の際には本人様とゆっくり話をする時間を作り、不安や要望、生活状況等を把握するよう努めている。ご家族様や関係者、書類等からの情報も併せ本人様の理解を深め、早期に本人様との関係が身近なものとなるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をするご家族様の立場に立ち、これまでの経緯についてゆっくり話を聴くようにし、不安の解消、ニーズの把握に努めており、現在まで殆どの場合が事前の見学案内及び面談等で納得の上、安心して申し込まれている。入居後も些細と思われる事でも都度連絡し情報共有する事で更なる安心感、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際に本人様、ご家族様の実情や要望を聞き、その時点で何が必要かを見極め、出来る限りの対応に努めている。本人様とご家族様の希望が一致しない場合は、職員も含めた話し合いにより、支援の優先度についても専門的なアドバイスをさせて頂き、信頼関係を築きながら必要な支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の大先輩であるという考えを職員が共有しており、料理、裁縫、畑仕事、昔の風習や文化等に触れる機会を多く設けるようにし、共に過ごし、学び、支え合う関係を築いている。また、入居者様の気持ちに寄り添い、共に暮らす中で喜びや悲しみを分かち合える関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から入居者様の様子や職員の思いをきめ細かくお伝えし、ご家族様の思いに寄り添い、共に支える為の協力関係を築くよう努めている。面会や行事への参加等で関わりの多いご家族様もいるが、そうでない場合には定期的に連絡し、近況報告やケアについて共に考える機会を作るよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様にとっての馴染みの人や場所を把握し、連絡を取ったり行き来出来るような機会を設けるよう努め、これまで培ってきた関係が途切れないよう支援している。その際の情報収集や実際に外出等行う場面ではご家族様の協力を得ながら支援しており、今までに美容院や地元のお墓参り等に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関わりが深まり、共に支え合い暮らせるよう交流の機会や個別で話を聴く時間を作り、一人一人が孤立せず楽しく過ごせるよう働きかけている。また、入居者間の関係性やトラブルの傾向、その日よっての気分の変化等に配慮し、状況に応じて職員が間に入りフォローするよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には事業所側で次の行き先について責任を持ち支援し、その後の経過に応じて相談にのる等のフォローをしている。退居後もホームに遊びに来られたり、ボランティアに来て頂ける等の関係が築けており、入居時に培った関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり、観察、ご家族様からの聞き取り等により、一人一人の思いや意向を把握するよう努めている。上手く言葉に出来ず把握が困難な場合にも、本人様はどうかという視点に立ち話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様との関わりの積み重ねやご家族様・関係者からの聞き取り、入居時の書類等からこれまでの暮らしや価値観等を把握するよう努め、ホームでも馴染みの暮らし方を継続出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活上の関わりや観察、パルチェック、申し送り等により様々な面からの現状把握に努めている。入居者様一人一人の生活リズムを把握し、何気ない行動や小さなサインからも情報を得よう心掛け、その人の全体像を理解して支援出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が自分らしく暮らせるよう本人様、ご家族様の要望を聞き、介護計画に反映させるようにしている。職員はアセスメント、会議での個別カンファレンス、必要に応じて話し合いを行い、現在の状態、適切な対応について意見交換し、入居者様主体の現状に即した計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の生活状況やケアの実践状況、その評価等を個別の記録に記入し職員間で共有する事で、日々の関わり方や介護計画の見直しに活かしている。記入の際には職員個々の気づきや工夫、入居者様の状態変化等を具体的に記すよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様の希望を聞き取り、可能な限り希望に沿った支援が出来るよう努めている。入居者様、ご家族様の状況の変化等により意向が変わった場合にも、その時々ニーズに出来るだけ迅速で柔軟な対応をとり、安心して頂けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアとの交流や近隣学校との関わり、消防、民生委員との協力により入居者様と地域との様々な接点を作る事が出来ており、協力体制が築けている。入居者様が安全で豊かな生活を継続出来るよう今後も様々な地域資源との協働に努めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別の希望がある場合は希望の医療機関を、それ以外は協力医療機関を受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。医療機関とは連携を密にし状態に応じた医療活用をし、ご家族様への受診結果や経過の報告もこまめに行い納得を得られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療、受診の際には、協力医療機関の看護師に介護職が日々ケアをしていて気付いた事や最近の体調の変化等を伝え個別にアドバイスを受けている。看護師との連携を密にする事で、日常の健康管理や状態に応じた医療面での対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者様の生活状況やケアの留意点等の情報提供をし、本人様へのストレスやダメージを軽減して安心して治療を受けられるよう努めている。医師や看護師、ご家族様との話し合いの機会も多くするようにし、出来るだけ早く退院し、ホームの生活にスムーズに戻れるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて事前にご家族様及び本人様の意向を確認し、事業所として出来る事の説明を行い可能な限りの対応をしている。時として思いに相違が生じた場合についても、医療関係者を含めての助言・話し合いにより方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命講習の実施や緊急時の対応マニュアルの整備により、全職員がその内容を熟知し対応している。また、日頃から起こりうる事故を想定してそれを未然に防ぐ為の対応に努め、職員間で繰り返し話し合い実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防立合い訓練の実施により災害対策について全職員がマニュアルを熟知している。訓練内容は夜間も含めた様々なケースを想定し、地域の方、消防の方にも参加して頂き具体的な避難策について検討し、確実な避難誘導が出来るよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様一人一人の人格、気持ち、誇りを尊重し、プライバシーを損ねない対応に努めている。介護の際の対応だけでなく、生活歴や身体状況に関する事、記録等に関しても対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様個々の能力に合わせた声の掛け方、聞き取り方、情報提供の仕方を工夫し、出来るだけ自己決定の機会を作るよう努めている。言葉で上手く意思表示が出来ない方にも、表情や生活全体の様子から希望や好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活上ある程度の生活の流れはこちらで作らせて頂く事もあるが、基本的には入居者様一人一人の生活リズムや気分、体調、その日したい事等を尊重し、本人が主体となった個別性のある支援が出来るよう柔軟な姿勢で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員はおしゃれが本人の自己表現の一つであり、自分らしさを取り戻す為の大切な支援であると理解している。好きな服を選ぶ、今までの習慣を継続する等個々の能力や生活習慣に合わせそれぞれがおしゃれを楽しみ個性を表現出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様個々の好みを把握して献立を考え、日頃から買い物や食事作りの前に食べたい物を聞くようにしている。買い物、食事準備、配膳、片付け等には一人一人の能力や意欲に応じた働きかけを行い、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量、栄養バランス、水分量は毎日記録に残し、常に状態を把握してそれに応じた食事・水分・間食の提供をしている。また、主治医や栄養士とも連携を取り、身体状況や摂取状況に応じた専門的なアドバイスを受けて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には義歯洗浄、歯磨き、うがいのケアを、自力で出来る方には声掛けや見守り、セッティング等を行い、能力に応じた口腔ケアを毎食後に行っている。夜間は義歯のポリドント洗浄を実施し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、改善点等を把握して対応を工夫し、トイレでの排泄、排泄の自立に向け支援している。失禁傾向の方、おむつ使用者についても日中は極力おむつを外し、早めのトイレ誘導を行う事で失禁が減り、尿意が戻る等状況が改善されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、便秘の原因やそれが及ぼす影響の理解に努め、飲食物・運動の両面から働きかけている。下剤服用者も多いが、服用量・頻度や効果等の面から随時見直しを行い、出来るだけ下剤に頼らず自然排便を促すよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日や順番を決めずに入居者様の希望や身体状況等に応じて週2～3回実施している。希望者には銭湯に行く支援も行い、好みや習慣を活かして入浴を楽しめるよう努めている。入浴中は安心、リラックス出来るような会話、介助を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、活動量、体調、精神状況等に応じて適度な休息を取り、安心して眠れるよう支援している。不眠傾向の方には原因を見極め対応を工夫して生活リズムを整える為の働きかけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬内容については全職員が把握しており、服薬管理については法人で取り決めた基本事項を遵守し、複数の職員で確認を行い誤薬のないよう支援している。処方箋変更時にはもちろん、日頃から症状の変化や副作用等に気を付け観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や得意な事、趣味等を把握し、それを活かした役割や楽しみ事の提供に努めている。能力や活動意欲等に差があっても、それぞれが楽しみや喜び、生きがいを感じ、個性を活かして活躍出来る場面を作っていくよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に応じて買い物や外食等に出掛ける機会を作るよう努めている。外出が負担になる方等にはホーム周辺の散歩や他ユニット訪問で気分転換や交流を図れるよう支援している。家族様や地域ボランティアの協力も得て大勢で外食をしたり、事前に予定を立てて遠方への外出等も実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理や使用が困難な方には買い物の機会を作り希望に応じてお金を使えるよう支援している。自己管理可能で希望のある方にはご家族様と相談の上、所持・使用して頂いており、個々の能力や希望に応じた金銭管理の支援が出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙でのやり取りには個々の能力に応じて取り次ぎや代弁、代筆等必要な支援を行い、その際プライバシーの配慮に努めている。日頃から定期的にご家族様や友人と電話や手紙のやり取りを行う事で、安心感・満足感・精神面の安定に繋がっている方もいる。また、毎年年賀状を出す為の支援も行い、家族等大切な人との繋がりを大事にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔保持に努め、装飾等は適度に生活感・季節感を取り入れ、明るく家庭的な雰囲気になるよう努めている。家具の配置や飾り付けについては、入居者様と一緒に考えながら共に環境作りを行うようにし、常に生活の主体である入居者様の目線・感覚を大切にしている。照明・音・温度等についても快適なものにするよう心掛け、状況に応じて調整し、安心出来る空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広々として明るく、複数のソファやテーブル、椅子を設置し、他者の気配を感じながらも、一人や気の合う仲間同士でリラックスして過ごせるような環境作りに努めている。また、入居者様の日々の過ごし方や他者との関係等の把握に努め、状況に応じてくつろげる場所へ案内したり、模様替えや環境改善を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居以前から使用していた馴染みの家具や生活用品を持ち込んで頂き、本人様・ご家族様の意向を聞きながら、その人らしさを活かした居心地良い居室になるよう配慮している。家具等の配置も本人様の使いやすさを重視し、居室で使用する物を新たに購入する際には本人の好みや意向を尊重して対応するようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には必要箇所の手摺り等を設置し、入居者様の残存能力を活かしながら安全で快適な生活を送れるような環境作りに努めている。また、常に入居者様個々の身体機能の変化に気を付け、状態に応じて環境の改善が出来るようこまめに設備・対応の見直しもを行っている。		